

佳作

今、私にできること

山形県 米沢市立北部小学校六年 遠藤 麻歩果

新学期が始まって一ヶ月が経とうとしています。今年、最高学年の六年生になり、去年とは少し変わったことがあります。

それは、一年生のお世話をすることです。去年までは、一年生のお世話をするのは六年生がするので、「一年生は小さくてかわいいな」と思って見ているだけでした。でも今年は、私達が六年生なので『一年生お世話し隊』として、一年生とふれ合える時間ができました。一年生が初めて登校する日、私はいつもよりドキドキして登校しました。小さな体にピカピカの大きなランドセルをせおって元気に登校してくる子もいれば、不安そうに登校してくる子もいました。中には、泣いて来る子もいました。私は、お世話をしようと張り切っていたのに、いざ、お世話をしようとしたら、泣いている子にはなんて声を

かければいいのかわからなかったり、困ってしまうことがたくさんありました。去年までは、泣いている一年生がいても、「誰かがなんとかしてくれる」と思って、自分で何かをしようとは思いませんでした。でも、最高学年となった今、そんなこと言っていられないことに気がつきました。「誰かが」の「誰か」は私だから人任せにはできません。だから、その子に声をかけてみました。

「だいじょうぶ？」

それでも返事はないし、泣きやみません。

「どうしたの？」

と声をかけても、泣き続けます。その日は、一年生が登校するのをお世話しただけでとてもつかれました。

次の日、その子は泣いていなくて私は「良かった」と思いました。でも、別の子が、

「ママー。ママー。」

と泣いていました。私は、昨日と同じように、

「どうしたの？だいじょうぶ？」

と声をかけました。でも泣き続けます。困っていたら、先生がいらして、

「声をかければかけるほど泣くから、放っておい

て。」

と言われました。私は言われた通りにその場を立ち去りましたが、それで良かったのかな、と思いましたが。次の日も、その次の日も、その子は泣いていて、私は毎日声をかけ続けました。ある日、いつも泣いていた女の子が

「今日、ママが三時半に学童に迎えに来る。」

どうれしそうに私に話してくれました。私はとてもうれしくなりました。そしてその次の日、その子は泣いていませんでした。今では学校で会うと笑顔で「お姉ちゃん。」

とかけ寄ってきてくれます。とてもかわいいし、元気に登校している姿を見るとうれしい気持ちになります。

このように、一年生のお世話する活動を通して六年生として少しずつ成長できている気がします。これからも一年生から六年生までみんなが楽しく学校生活を送れるようにがんばっていきたいです。